

薬学的介入事例抜粋

「愛顔の薬局づくり事業」事例集より
(20160421)

事例 1

患者背景(年齢・性別): 3 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: ラックビー[®]R 散→レベニン[®]散

介入: 患者が牛乳にアレルギーがあることを聴取した。ラクビー[®]R 散は「牛乳に対してアレルギーのある患者」は禁忌に該当するため医師へ疑義照会したところレベニン[®]散へ変更となった。

介入内容: その他_禁忌、副作用回避

事例 2

患者背景(年齢・性別): 46 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: セレコックス[®]錠 100mg→ロキソプロフェン Na 錠 60mg

介入: 初めて来局する患者であった。お薬手帳を確認すると以前、全身に皮疹が出た経験があることを聴取し、アレルギー疑いのある薬剤のなかにセレコックス[®]錠があった。さらに、患者へ確認したところ医師へ伝達したか明確ではなかったため、医師へ疑義照会を行ったところロキソプロフェン Na 錠へ変更となった。

介入内容: その他_禁忌、副作用回避

事例 3

患者背景(年齢・性別): 23 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: なし→フォリアミン[®]錠 5mg

介入: 一時中止していた関節リウマチに対するリウマトレックス[®]カプセルでの治療が再開となった。フォリアミン[®]錠の残薬について確認すると残薬は無く、今回、処方も無かったため医師へ疑義照会を行い追加となった。

介入内容: その他_処方もれ、副作用回避

事例 4

患者背景(年齢・性別): 58 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: セロクエル[®]25mg 錠→コントミン[®]糖衣錠 12.5mg

介入: 現在内服中の薬剤を確認したところ、糖尿病治療薬のデベルザ[®]錠を内服していることを聴取した。今回、セロクエル[®]錠が処方されていたため、医師へ疑義照会を行ったところコントミン[®]糖衣錠へ変更となった。

介入内容: その他_禁忌、副作用回避

事例 5

患者背景(年齢・性別): 67 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: プレドニン®錠 5mg→プレドニン®錠 5mg、バクタ®配合錠

介入: 愛媛大学医学部附属病院から転院した患者であり、薬剤は同量のまま継続するよう指示を受けていたが、プレドニン®錠は 1 日 3 錠から 2 錠へ減量となっており、さらにバクタ®配合錠も 1 日 1 錠を週 3 回(月・水・金)服用するところ連日服用となっていたため、医師へ疑義照会を行ったところ処方内容が変更となった。

介入内容: その他_誤転記/誤処方に対する介入、副作用回避&薬効減弱回避

事例 6

患者背景(年齢・性別): 59 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: カロナール®錠 300→カロナール®細粒 50%

介入: 胃瘻のため薬剤は錠剤ではなく散剤を希望していたため、医師へ疑義照会を行ったところ錠剤から細粒へ変更となった。

介入内容: 薬歴_服用困難な状態、

必要な薬物療法が受けられないことによる健康被害回避

事例 7

患者背景(年齢・性別): 43 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: アーチスト[®]錠 10mg→カルデナリン[®]OD 錠 2mg

介入: 患者より既往歴に気管支喘息があること、さらに最近では呼吸が苦しくなることもありシムピコート[®]タービュヘイラーを吸入していることを聴取した。アーチスト[®]錠は、気管支喘息のある患者には禁忌であることから、医師へ疑義照会を行ったところカルデナリン[®]OD 錠へ変更となった。

介入内容: その他_禁忌、副作用回避

事例 8

患者背景(年齢・性別): 76 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: ベルソムラ[®]錠 15mg→なし

介入: 現在内服中の薬剤を確認したところ、クラリス[®]錠を内服していることを聴取した。今回よりベルソムラ[®]錠が頓服薬で処方されており、ベルソムラ[®]錠とクラリス[®]錠は併用禁忌であることから、疑義照会を行いベルソムラ[®]錠は中止となった。

介入内容: 相互作用_併用禁忌、副作用回避

事例 9

患者背景(年齢・性別):42 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤:レボフロキサシン錠 500mg→レボフロキサシン錠 250mg

介入:患者の血液検査値を確認したところ血清クレアチニン値は 1.27mg/dLであった。以前、レボフロキサシン錠が処方されていた時は1回 250mg であったが、今回は1日1回 500mg 3日分で処方されていた。疑義照会を行ったところ初日は1日1回 500mg で変更なかったが、その後2日分は1日1回 250mg へ減量となった。

介入内容:腎機能_作用増強回避、副作用回避

事例 10

患者背景(年齢・性別):53 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤:ロキソプロフェン Na 錠 60mg→ボルタレン[®]錠 25mg

介入:今回、ロキソプロフェン Na 錠が処方されていることを確認した。一方、以前にロキソプロフェン Na 錠を服用した際、疼痛が改善しなかったことを患者より聴取した。そのため、ロキソプロフェン Na 錠以外の鎮痛薬へ変更可能か医師に確認したところ、ボルタレン[®]錠へ変更となった。

介入内容:その他_その他、

必要な薬物療法が受けられないことによる健康被害回避

事例 11

患者背景(年齢・性別): 47 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: クラリシッド[®]錠 200mg→サワシリン[®]錠 250

介入: 現在内服中の薬剤を確認したところ、カルブロック[®]錠とシメチジン錠を内服していることを聴取した。今回処方分のクラリシッド[®]錠とシメチジン錠は、薬物代謝酵素である CYP3A4 を阻害してカルブロック[®]錠の血中濃度を上昇させる危険性が高まることから医師へ確認したところ、サワシリン[®]錠へ変更となった。

介入内容: 相互作用_併用注意、副作用回避

事例 12

患者背景(年齢・性別): 47 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: クラリシッド[®]錠 200mg →メリアクト MS[®]錠 100mg

介入: 現在内服中の薬剤を確認したところ、アトルバスタチン錠を内服していることを聴取した。クラリシッド[®]錠はアトルバスタチンの血中濃度を上昇させる危険性があることから医師へ確認したところ、メリアクト MS[®]錠へ変更となった。

介入内容: 相互作用_併用注意、副作用回避

事例 13

患者背景(年齢・性別): 79 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: ニポラジン[®]錠 3mg→タリオン[®]錠 10mg

介入: 患者より既往歴に前立腺肥大症があることを聴取した。ニポラジン[®]錠は、「前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者」には禁忌であることから医師へ疑義照会したところ、タリオン[®]錠へ変更となった。

介入内容: その他_禁忌、副作用回避

事例 14

患者背景(年齢・性別): 27 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: ムコダイン[®]錠 500mg→ムコソルバン[®]錠 15mg

介入: 患者より薬剤にて発疹が出た経験があることを聴取し、アレルギー疑いのある薬剤として過去の薬歴よりムコダイン[®]錠が原因と考えられたため医師へ報告し、代替薬としてムコソルバン[®]錠を提案したところ変更となった。

介入内容: その他_副作用対策、副作用回避

事例 15

患者背景(年齢・性別):74 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤:メリアクト MS[®]錠 100mg →なし

介入:患者は近隣の耳鼻科からメリアクト MS[®]錠を 7 日分処方されていた。お薬手帳を確認すると同日レボフロキサシン錠が処方されており抗生物質が重複することから近隣の耳鼻科医師へ疑義照会したところ、メリアクト MS[®]錠が中止となった。

介入内容:その他_誤転記/誤処方に対する介入、副作用回避

事例 16

患者背景(年齢・性別): 57 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: ロキソニン[®]錠 60mg→カロナール[®]錠 300mg

介入: 患者の血液検査値を確認したところ eGFR(推定糸球体濾過量)が 40 台であった。
今回、ロキソニン[®]錠が処方されていたため医師へ確認したところ、カロナール[®]錠へ変更となった。

介入内容: 腎機能_作用増強回避、副作用回避

事例 17

患者背景(年齢・性別): 77 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤:

フロモックス[®]小児用細粒 100mg→セフカペンピボキシル塩酸塩錠 100mg

介入: 患者は鼻腔栄養であり、今回処方された フロモックス[®]小児用細粒では(製剤)量が多くなることから医師へ確認してセフカペンピボキシル塩酸塩錠の粉砕を提案したところ変更となった。

介入内容: 薬歴_服用困難な状態、その他

事例 18

患者背景(年齢・性別): 74 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: ディレグラ®配合錠→ディレグラ®配合錠

介入: 今回、ディレグラ®配合錠が 56 日分処方されていた。添付文書の記載を確認したところ「重要な基本的注意」に「2 週間を超えて投与したときの有効性及び安全性は検討されていない」との記載があったことから医師へ疑義照会したところ 14 日分へ変更となった。

介入内容: その他_ 不要薬の中止、副作用回避

事例 19

患者背景(年齢・性別): 70 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: クレストール®錠 2.5mg→なし

介入: 患者は以前よりネオーラル®カプセルを服用中であったが、今回、クレストール®錠が処方された。ネオーラル®カプセルとクレストール®錠は併用禁忌であったため医師へ疑義照会したところクレストール®錠は中止となった。

介入内容: 相互作用_ 併用禁忌、副作用回避

事例 20

患者背景(年齢・性別): 77 歳・女性

介入前薬剤→介入後薬剤: マグラックス[®]錠 330mg→マグラックス[®]錠 330mg

介入: 患者の血液検査値を確認したところ eGFR(推定糸球体濾過量)が前回 72 mL/min と比較して今回 42.2 mL/min と低下していた。そのため、グラクティブ[®]錠 50mg 1 日 1 回 1 錠とマグラックス[®]錠 330mg 1 日 3 回 1 回 2 錠について医師へ疑義照会したところ、グラクティブ[®]錠 50mg は変更なし、マグラックス[®]錠 330mg は 1 回 2 錠(1 日 6 錠)から 1 回 1 錠(1 日 3 錠)へ減量となった。

介入内容: 腎機能_作用増強回避、副作用回避

事例 21

患者背景(年齢・性別): 65 歳・男性

介入前薬剤→介入後薬剤: ザルティア[®]錠 5mg→なし

介入: 今回、ザルティア[®]錠が処方された。一方、他院にてアイトロール[®]錠が処方されていることを確認し、ザルティア[®]錠とアイトロール[®]錠は併用禁忌であったため医師へ疑義照会したところザルティア[®]錠が中止となった。

介入内容: 相互作用_併用禁忌、その他